

# 原発 **〇** にむかって

2013年2月22日 No.43

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

## 「展望の見えない現実」復興支援の継続を

### 第2回 東都協議会 福島連帯・現地支援行動

1月27日、28日に「第2回東都協議会福島連帯・現地支援行動」が行われました。職員19人、友の会会員3人の合計21人が参加しました。 (東都協議会組織部・東條氏より)

初日は、福島市内の産直カフェで店長から現在の様子を聞き、農産物などの買物をしました。その後、わたり病院で福島医療生協の1年6ヶ月の取り組みや、現地での子育ての実態についてお話を聞きました。渡利地区は福島市内でも放射線量の高い地域ですが、多くの困難を乗り越えながら医療活動を継続していることが伝わってきました。

翌日はまず榊葉町の宝鏡寺に向かいました。榊葉町は現在、昼間は自由に往来できますが、泊まることはできません。宝鏡寺の早川住職のお話では、「先祖伝来の土地を使えず、泥棒が荒らしまわっており、また雨漏りや小動物の侵入で住宅が住めなくなっている現実、多くの人が『絶望感』に襲われている」と語られました。

その後、浜通り医療生協の伊東理事長に同行していただき、お話を伺いながら、榊葉町の改装途中で放棄された中学校や、卒業式のなごりが残る小学校を視察しました。

130億円の巨費を投じた「Jヴィレッジ」にも入りましたが、施設はすっかり様変わりし、芝生に覆われたサッカーコートも、今は作業員の大駐車場になっていました。

原発事故の深刻さをあらためて感じるとともに、復興支援とともに原発廃止への思いを強くしました。



わたり病院でのお話



宝鏡寺・早川住職のお話



駐車場と化したJヴィレッジ

### 「現地に足を運ぶことができ本当によかった」 (参加者感想より)

(わたり病院のお話を聞いて) たくさんの話を聞かせて頂き、病院の敷地内の案内をうけて、目に見えず手に負えない放射能を利用して発電している事の恐ろしさを改めて感じました。これだけの被害、精神的苦痛を生み出しながら、「原発を維持すべき」という人がいる事には腹が立つというより情けなく思います。「問題を福島県内に押し込めようとしている。県境で切り離せるものではないのに…」という言葉は確かにその通りで、福島が今後どうなっていくのかをしっかりと見なければいけないと思いました。

(宝鏡寺で早川住職のお話を聞いて) 原発誘致は農業や、漁業などの産業では生活できないという事を利用した棄民政策だと話されていました。早川さん自体は原発誘致時から反対運動をされていますが、町の将来や事故処理については自治体や東電だけの責任としないで一緒に考えていこうという姿勢に共感しました。

…これまで新聞やTV、集会などでの報告を通してしか接していなかった福島県に足を運ぶことができ本当に良かったと思います。今回、見聞きしたことは全体の中のほんの一部ですが、実際に目にし話を聞いたことで、原発は絶対にあってはいけないものだと思えるようになりました。



### 3/10は「東日本大震災復興と原発ゼロの実現をめざす3・10東京集会」へ

全日本民医連も参加している「原発をなくす全国連絡会」は、大震災2年目前日の3/10(日)を中心に原発ゼロと東日本大震災の早期復興を掲げて多様な行動を呼びかけています。東京では 3/10(日) 11:00~12:30 日比谷公園にて上記集会を予定しており、各法人からの積極的参加をよびかけます。